

## 現在の教育目標

すすんで学び  
丈夫なからだで  
みんな仲よく

- ★根拠法令 教育基本法
- 自ら進んで学習に取り組みむ意欲を高める 第六条
- 健やかな身体を養う 第二条
- 自他の敬愛と協力 第二条
- … 当時の市議会議長の言葉

## なぜ教育目標を改訂するのか？

### 「丈夫なからだで」について

学校や社会では、ダイバーシティ・インクルージョンが推進されており、障害のある人に対する理解を深めるための基盤づくりが行われている。そして、障害のある人と障害のない人が、お互いに、障害の有無にとらわれることなく、支え合いながら社会で共に暮らしていくことが日常となるようにさまざまな取組が進められている。

「丈夫なからだ」が教育目標の文言となっている例は多くあるが、教育目標として適切であるか考えたい。障害者基本法では先に述べた共生社会の実現と障害及び障害者に対する国民の関心と理解を一層深めることが目的とされている。障害者の中には、病状が進行中であり、どのように努力しても丈夫な身体になれない人がいる。

共生社会をキーワードに「丈夫なからだで」について深く考え新しい目標への改訂作業を進めたい。

### 「みんな仲よく」について

「仲よく」の意味は、単になかがよいいに加えて『仲睦まじい』関係であることである。確かに、子どもたち同士や子どもと大人が仲がよければそれはそれでよいのだが、学校の教育目標に掲げるだけの重要なことだろうか。多くの個性がぶつかり合う中で新たな価値観に気付いたり、価値観が一致しない中で新たな創造が生まれたりすることがある。

学校の教育目標に「みんな仲よく」掲げれば、これを達成するための努力が必要になる。全生徒や全教職員、全教職員と全生徒が仲睦まじい関係をつくることをどのようにイメージできるだろうか。とても難しい。

大事なことは、仲のよし悪しではなく、一人一人が人間同士のかかわりの中で社会の目標や個人の目標の達成のために取り組むことではないだろうか。ときには、悩んだり苦しんだりぶつかりあったりすることも大切なことではないか。これらのことを踏まえ「みんな仲よく」について深く考え新しい目標への改訂作業を進めたい。

## 教育目標設定の頃の時代と背景

昭和49年戦後初のマイナス経済成長だった。過激派による連続企業爆破が起こって、世間を震撼させた。中学校では、校内暴力が徐々に問題になり、昭和50年代には、府中市内の学校でも校内暴力(対教師暴力)が大きな問題となった。この頃、中学校を舞台にしたテレビドラマ『3年B組金八先生』で、校内暴力が主題として扱われ、「腐ったミカン」という表現が話題となった。また、東京都内では中学生による関東番長連合「憂誠会」という組織が結成され、世間を驚かせた。

## 教育目標の策定

- ふれあいを大切にしたい  
⇒特に「先生と生徒が仲よく」を重点に
- 受験を目指した知識の詰め込みと  
学力偏重を改めたい
- 非行問題を改善させたい  
⇒社会性を養い  
心身ともに健全な生徒を育成したい

## 教育目標改訂に向けての工程

